

ふかめる

分 か る と 快 感 !

# Z会ナビ

算数

理科

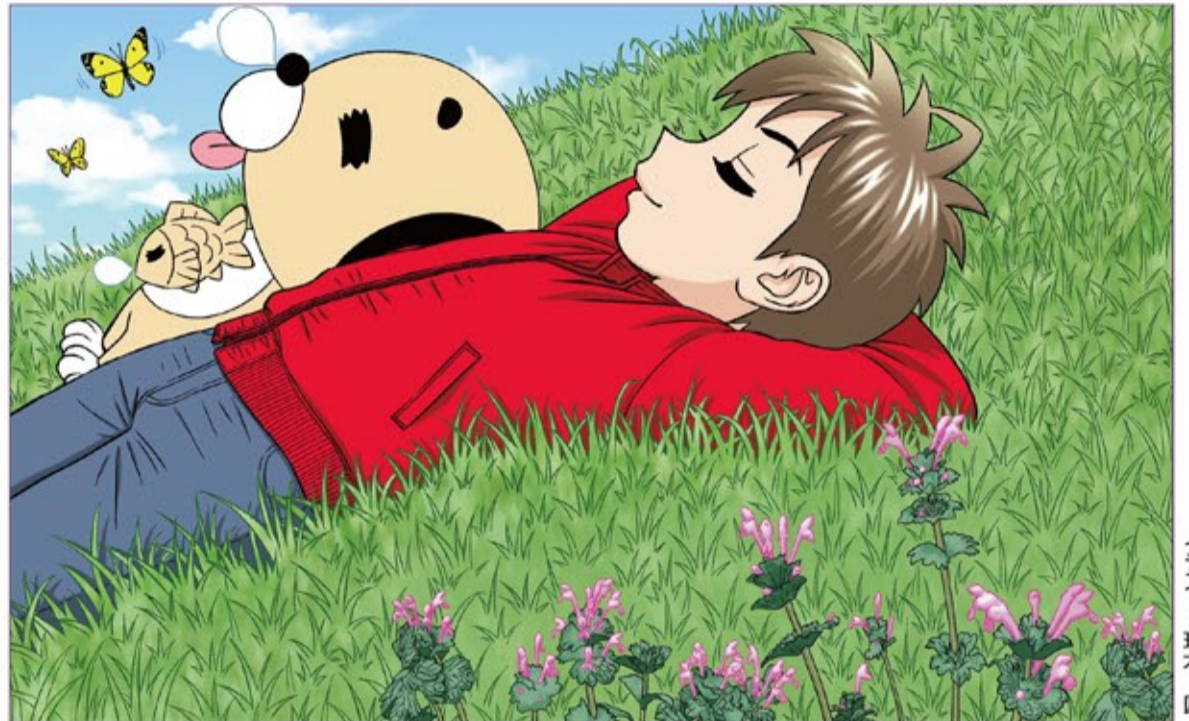
社会

お題

## 春の草花



公園の地面で、オオイヌノフグリの花がたくさんさいているのを見かけました。オオイヌノフグリのように春に成長する植物は、気温が低いため、夏に成長する植物と比べると速く成長することができません。それでも気温の低い春を選んで成長することの利点を考え、答えなさい。



3月のはじめは、まだまだ寒い日も多いですが、草花がのびはじめ、花をさかせている植物も多く見られます。暖かい日には、昆虫も動き回り、花にハチが訪れている姿もよく見かけます。

とはいうものの、夏真っ盛りのころと比べると、まだまだ植物の数も少なく、小さいものが多いですね。気温の低い時期は植物の成長にはあまり適していないのですが、この時期にだけ成長するような植物も多くあります。草地でよく見られる植物としては、オオイヌノフグリやホトケノザ(※)、ヒメオドリコソウなどが代表的でしょうか。これらはどれもたくさん生えていても「じゃまだからぬいてやろう」とはあまりならない、ひかえめな草です。夏の暖かい時期に成長すれば、もっと大きくなれるかもしれないのに……とは思いますが、まだ寒い時期に成長するのは理由があるのです。

### 日光を浴びるために

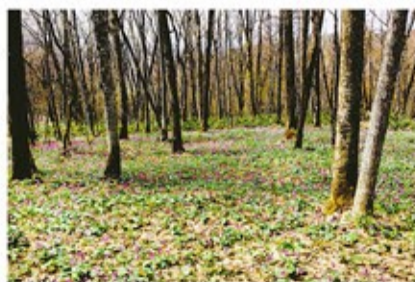
植物によって異なりますが、一般的には気温が高い時期のほうが、植物はよく成長することができます。そのため、草地に生えている多くの植物は、夏に大きく成長していきます。植物が成長するためには、温度だけでなく、水と、そして日光も必要です。ではまず、「日光」について、考えてみましょう。

気温が高い時期に多くの植物が大きく成長するという事は、まわりの植物よりもさらに大きく成長しなければ、草地で日光を十分に浴びて光合成をすることができなくなってしまいますね。その点、植物があまり成長しない気温の低い時期であれば、大きく成長しなくてもまわりの植物にじゃまされることなく、日光を十分に

浴びて光合成をすることができるのです。ほかの植物と競争をしなくてもよいということが、春に成長することの利点なのですね。

草地以外ではどうでしょう。実は、春にだけ成長する植物は、林の中にも多いのです。林といっても、スギやヒノキのような冬でも葉がついている木の多い林ではなく、落葉樹とよばれる、冬に葉を落とす木が多い林です。

落葉樹は、冬に葉を落とし、また暖かくなると葉をしげらせます。冬から春にかけては葉がないということです。葉がない時期は、日光が葉でさえぎられることがないため、林の地面にも日光が当たり明るくなります。その時期をねらって、背の低い植物が成長し、花をさかせるのです。



林の中でさくカタクリの花

そうした場所では、夏になると生いしげった木の葉で日光がさえぎられて暗くなるため、植物があまり育つことができなくなるのです。

### 食べられずに育つ

春の「気温」についても考えてみましょう。気温が低いことは、植物の成長にとって不利ですが、逆に良いこともあるのです。

寒い時期は、植物だけでなく、昆虫たちも数が少なく、動きもまだ活発ではありません。夏であれば、たくさんの活発な昆虫に食べられて、

かれてしまうこともよくありますが、春はその心配が少ないのです。

気温の低い春に成長する植物は、寒いことだけがまんすれば、光合成のためにまわりの植物と競争しなくてもよく、昆虫たちに食べられないように身を守る必要もあまりありません。ゆっくりのんびり小さく成長して花をさかせ、子孫を残すことができるのですね。

夏の植物はつるを巻きつけてのぼしたり、くきを太くじょうぶにして背を高くしたり、トゲを生やして昆虫に食べられにくくしたり、さまざまな工夫をしてライバルや敵の多い環境を生きています。そうした努力をしてその環境の中で勝ちぬくことができれば、春に小さく生きるよりもより多くの子孫を残せる可能性が生まれるのです。

春に成長する植物も、夏に成長する植物も、それぞれの季節に適した成長の戦略を持っているのですね。

(Z会・鳥越賢)

(※) 春の七草のほとけのぞ(コオニタビラコ)とは別の植物です。

### ！ 今回の教訓

ほかの生き物があまりいない環境では、競争をしなくても生き残ることができます。



鳥越賢さん 2010年Z会入社。小学生向けの理科の教材編集を担当。生き物が大好きで、生き物の写真投稿サイト「日本まるごと生き物図鑑」を運営。